

岡山の大学へ 行こう!

vol.3 活躍する卒業生たち

大学卒業後、多くの学生は4年間で深めた知識、技術、経験を生かし、社会の一員として多彩な分野で活躍しています。岡山の大学で学んだ学生は就職活動(就活)で、地元企業・団体と密接な関わりのある大学から手厚い支援を受けられるという大きなメリットがあります。

「岡山の大学へ行こう!」シリーズ最終回は、県内大学の卒業生に仕事のやりがいや大学時代の思い出についてインタビュー。若者の就活をサポートする「おかやま新卒応援ハローワーク」の取り組みも紹介します。

〈企画・制作／山陽新聞社広告本部〉



**診療情報管理士として
より良い医療に貢献**

川崎医療福祉大学
医療福祉マネジメント学部
医療情報学科
(2016年卒業)

高木 春奈さん
倉敷中央病院
医療情報部 医療情報課

川崎医療福祉大学・川崎医療短期大学

実習と専門知識が 就職後の力に

医療現場の情報の電子化が進み、患者さんの検査・診断・治療などに関する情報を管理する「診療情報管理士」のニーズが増加しています。本学は岡山県内の大学で唯一、診療情報管理士

認定試験の受験資格が得られる指定校で、私は医療情報学科3年次に取得しました。講義では、現場で活躍されている現役の臨床医から専門的な知識を修得することができ、さらに、学園内の施設である川崎医科大学附属病院(倉敷市)と川崎医



カルテを読み込み、傷病名をコード化していく

科大学総合医療センター(岡山市)での実習環境も整っています。また、就職に関するサポートも充実しています。



大学4年次、沖縄での学会に参加(左から2人目が高木さん)

でも心強かったです。現在の主な業務は、患者さんの傷病名などにコードを付ける「ICD(国際疾病分類「コーディング」と「がん登録」)です。個人情報への扱いに注意するのはもちろん、どちらも統計データを体系的に記録し、分析することを目的としているため、正確な情報を収集し、データを正しく処理するよう、一つ一つの作業を丁寧にやることを心がけています。1件の積み重ねが膨大なデータとなり、新たな知見につながるため、大変やりがいを感じています。

〒701-0193 倉敷市松島288

川崎学園アドミッションセンター ☎ (086)464-1064